

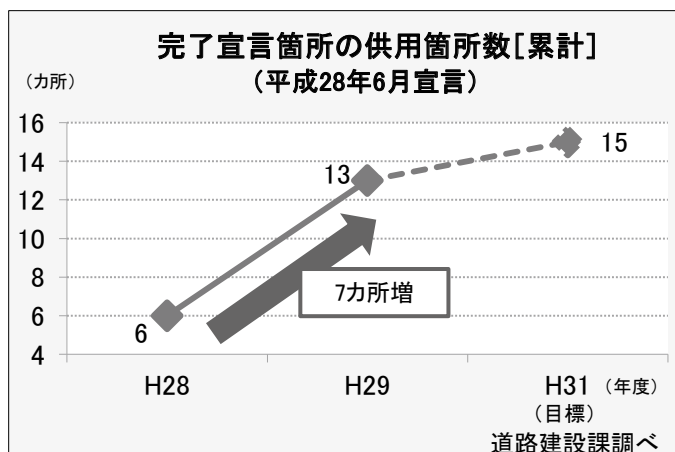
IV 効率的・効果的な基盤整備

目指す姿

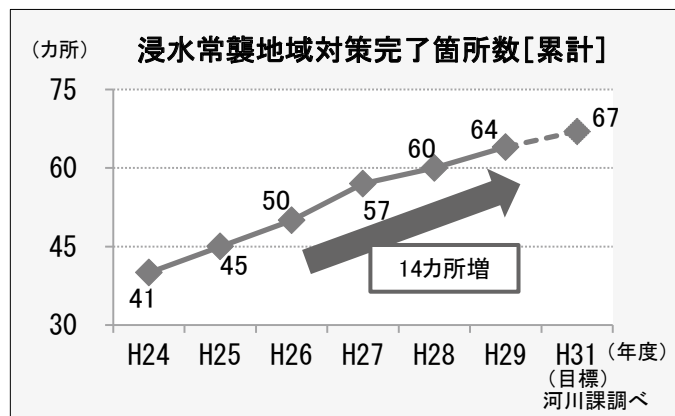
経済の活性化、くらしの向上を図るため、「選択と集中」により、社会資本の管理、活用、整備をマネジメントし、安全・安心のための県土整備、交通環境の充実を図ります。

主担当部局(長)名
県土マネジメント部長 山田 哲也

1. 政策目標達成に向けた進捗状況

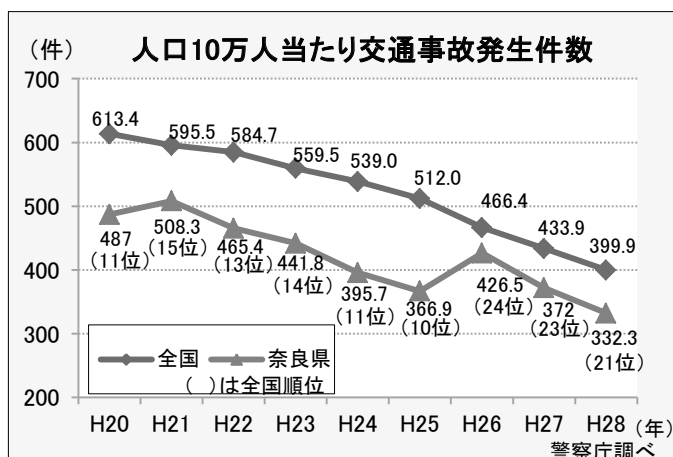


目標	平成31年度までに、「選択と集中」による道路整備を推進し、15カ所を供用します。(H28年6月時点完了宣言箇所)
成果	完了宣言箇所(供用予定年度を公表している箇所)について、重点的に整備し、平成28年度に6カ所、平成29年度に国道168号辻堂バイパス等7カ所を供用し、15カ所中13カ所を供用しました。

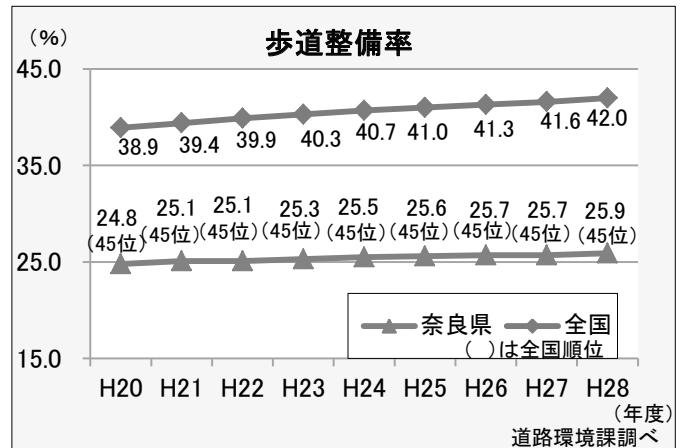
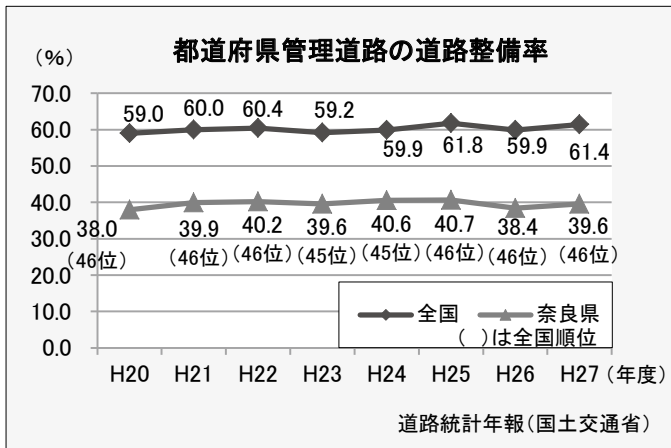


目標	平成31年度までに、浸水常襲地域において被害軽減のための減災対策を推進し、概ね7割の地域で対策を完了します。(H27年3月末:50カ所(52%)で対策完了)
成果	浸水常襲地域における減災対策緊急プログラムに基づき、平成20年度から減災対策河川に対して重点投資し、平成29年度末時点で、浸水常襲地域96カ所のうち、64カ所で減災対策を実施しました。(実施率66.7%)

2. 現状分析

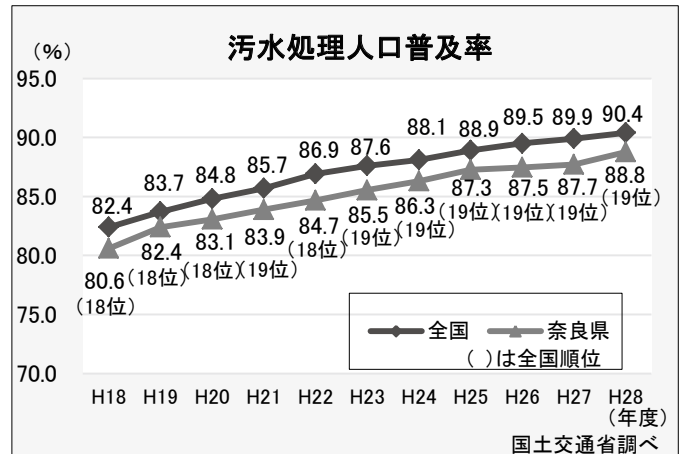
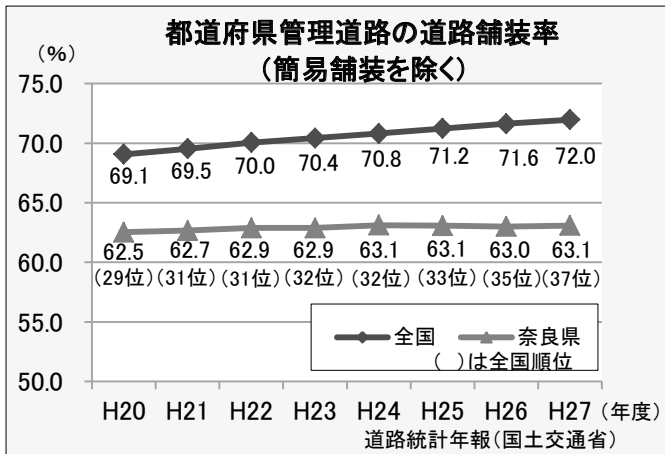


人口10万人当たり交通事故発生件数は概ね減少傾向にあり、全国と比べても少なくなっています。(→戦略2)



平成27年度の県管理道路の道路整備率は約40%で、全国平均の約61%と比べて大幅な遅れとなっています。(→戦略1)

歩道整備を推進したため、歩道整備率は上昇していますが、全国と比べると依然低い水準となっています。(→戦略2)



平成27年度の県管理道路の道路舗装率は平成20年度から約0.6ポイント上昇していますが、全国と比べると低い状態が続いています。(→戦略2)

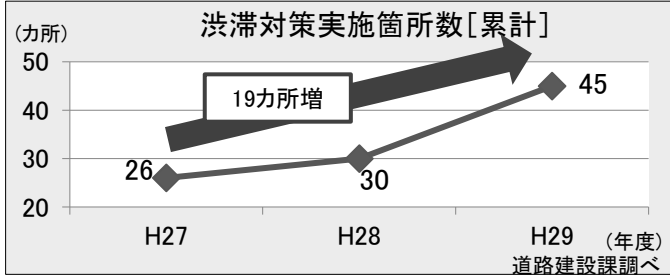
下水道整備及び合併処理浄化槽設置促進により、汚水処理人口普及率は着実に上昇しています。(→戦略2)

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 企業立地の支援、観光の振興等、地域経済の発展に寄与する基盤整備を推進します。

主担当課(長)名 道路建設課長 松田 浩之

戦略目標	①国への働きかけにより、京奈和自動車道の整備による県内の高規格幹線道路の整備を促進します。 ②快適で便利な交通環境の実現を目指します。 ③地域資源を活用したにぎわいの拠点づくりを推進します。
------	---



目標	快適で便利な交通環境の実現を目指します。
成果	平成28年度までに30カ所、平成29年度に王寺誇線橋北交差点で右折レーンの延伸等15カ所の渋滞対策を実施し、累計で45カ所の渋滞対策を実施しました。

主な取組指標等

骨格幹線道路ネットワークの形成(①)		
県内の高規格幹線道路(京奈和自動車道、西名阪自動車道、名阪国道)整備延長[累計]		
69km (H24年度)	➡ 11km	80km (H29年度)

企業立地の支援・観光振興に資する道路整備の推進(①)		
京奈和自動車道の整備率		
50% (H26年度)	➡ 15ポイント	65% (H29年度)

企業立地の支援・観光振興に資する道路整備の推進(①)		
浸水常襲地域対策完了箇所数[累計]		
41カ所 (H24年度)	➡ 23カ所	64カ所 (H29年度)

奈良の魅力を一層高める交通環境の充実(②)		
広域的な自転車利用ネットワークにおける案内誘導及び注意喚起サイン整備率		
23% (H24年度)	➡ 60ポイント	83% (H29年度)

奈良の魅力を一層高める交通環境の充実(②)		
自転車利用者をおもてなし(サポート)する「ならクル・サポーター」(休憩所・宿・ターミナル)認定数[累計]		
120件 (H24年度)	➡ 88件	208件 (H29年度)

奈良の魅力を一層高める交通環境の充実(②)		
「ぐるっとバス」(奈良公園ルート)のGW期間(休日)の平均利用者数		
1,154人/日 (H24年度)	➡ 48.8%	1,717人/日 (H29年度)

都市公園等のマネジメントの推進(③)		
都市計画区域内人口1人当たり都市公園面積		
12.16㎡/人 (H24年度)	➡ 7.2%	13.04㎡/人 (H28年度)

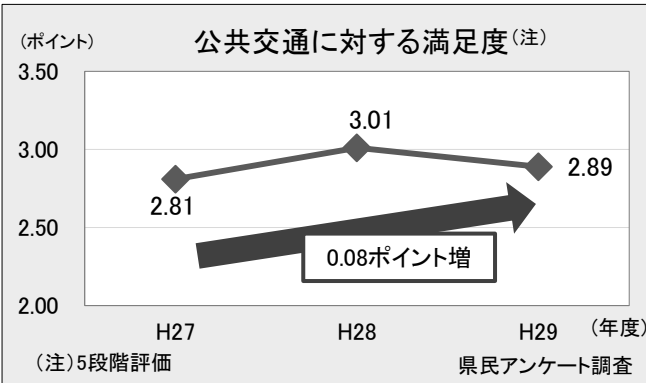
数値で表せない成果

平成29年8月に、企業立地の促進や観光振興等の地域経済の活性化に大きく寄与する京奈和自動車道大和御所道路[御所南IC～五條北IC](延長7.3km)が開通しました。(①)

「奈良市附近」駅位置の早期確定及び三重・奈良・大阪ルートの早期実現に向け、国への要望活動等の実施に加え、新たな取組として、平成29年9月に三重・奈良・大阪リニア中央新幹線建設促進決起大会を開催しました。(②)

奈良公園等の観光拠点間を結ぶ「ぐるっとバス」の運行(土日祝日に運行、春・秋の観光シーズン等は平日も運行。運行日数:年間151日)、パーク&バスライドの利用促進により、奈良公園周辺への車の流入抑制を図りました。(②)

戦略目標	①奈良県安心歩行空間整備方針に基づき、安全な歩行空間を確保し、歩道整備率を向上させます。(H27年度:25.75%) ②市町村や交通事業者、地域住民等と連携・協力のもと、誰もが安心して暮らせるモビリティ(移動の利便性)の確保を目指します。 ③地域の住民や企業との協働による快適な道路空間の維持・向上に向けての取組として、平成31年度までに「みんなで守ロード」事業の参加団体を108団体に拡充します。(H27年度:97団体) ④生活環境の改善及び公共用水域の水質保全を目指し、平成31年度までに、汚水処理人口普及率を92.0%にします。(H26年度:87.5%)
------	---



目標	市町村や交通事業者、地域住民等と連携・協力のもと、誰もが安心して暮らせるモビリティ(移動の利便性)の確保を目指します。
成果	移動ニーズが多様化している中、路線バス、コミュニティバス等への支援等、市町村、交通事業者等の関係者が連携・協働して交通サービスの維持、確保、改善に向けた取組を継続的に行うことで、公共交通に対する満足度は、横ばいとなっています。

主な取組指標等

無電柱化の推進(①)		
市街地幹線道路の無電柱化率		
6.2%	➔ 3.0 ポイント	9.2%
(H24年度)		(H29年度)

生活利便の向上に資する道路整備の推進(①)		
歩道整備率		
25.5%	➔ 0.6 ポイント	26.1%
(H24年度)		(H29年度)

歩行空間の確保とバリアフリーの推進(①)		
駅構内の段差が解消された(バリアフリー化された)鉄道駅数[累計]		
55駅	➔ 6駅	61駅
(H24年度)		(H29年度)

骨格幹線道路ネットワークの形成(再掲)(②)		
県内の高規格幹線道路(京奈和自動車道、西名阪自動車道、名阪国道)整備延長[累計]		
69km	➔ 11km	80km
(H24年度)		(H29年度)

移動ニーズに応じた交通サービスの実現(②)		
路外駐車場(届出駐車場)のうち車いす使用者用の駐車スペースのある駐車場箇所数[累計]		
58カ所	➔ 17カ所	75カ所
(H24年度)		(H29年度)

アセットマネジメントの推進(③)		
道路沿道における草刈りや清掃活動に参加する地域ボランティア団体数(団体)		
95団体	➔ 16.8%	111団体
(H24年度)		(H29年度)

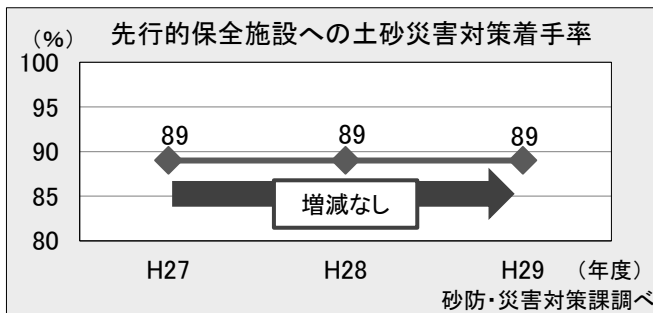
効率的な下水道運営の推進(③)		
汚水処理人口普及率(%)		
86.3%	➔ 2.5 ポイント	88.8%
(H24年度)		(H28年度)

数値で表せない成果

通学路の点検や歩道設置等の安全対策の実施により、児童・生徒の安全性が向上しました。(①)

平成30年1月に、奈良県総合医療センター(平成30年5月開院)へのアクセス道路となる県道枚方大和郡山線柳町工区(延長0.6km)及び都市計画道路石木城線(延長1.0km)が全線開通しました。(②)

戦略目標	①「なら安心みちネットプラン」に基づき、道路ネットワークの遮断を未然に防止するため、道路防災対策を推進します。 ②河川整備計画に基づき、河川改修を推進します。 ③平成31年度までに、先行的保全施設(避難所や要配慮者利用施設)約50カ所の土砂災害対策に着手します。(H27年1月:34カ所) ④平成31年度までに、土砂災害特別警戒区域について約1万箇所調査し、その結果を公表します。 ⑤平成32年度までに、骨格幹線道路ネットワークの整備率が52%となるよう、整備を進めます。(H28年3月:35%) ⑥東西大動脈輸送ルート之二重系化による国土構造の強靱化や県内への大動脈形成を図るリニア中央新幹線三重・奈良・大阪ルートの早期実現を目指します。
------	---



目標	平成31年度までに、先行的保全施設(避難所や要配慮者利用施設)約50カ所の土砂災害対策に着手します。(H27年1月:34カ所)
成果	先行的保全施設(避難所や要配慮者利用施設)の土砂災害対策は、全体の89%(40カ所)まで着手しましたが、施設の移転等により対策が不要となり、先行的保全施設の全体数が変動したことから、着手率は平成27年度から平成29年度までの3年間、横ばいで推移しています。

主な取組指標等

道路防災対策の推進(①) 道路防災対策箇所の整備率 17% (H26年度) → 3ポイント → 20% (H29年度)	治水対策の推進(②) 浸水常襲地域対策完了箇所数 [累計] 41カ所 (H24年度) → 23カ所 → 64カ所 (H29年度)	大和川流域の力を結集した洪水対策(②) 大和川流域における流域対策の進捗状況 78% (H24年度) → 6ポイント → 84% (H29年度)
土砂災害対策の推進(③,④) 土砂災害防止法に基づくハザードマップを作成・公表し、防災訓練を実施した市町村の割合 64% (H24年度) → 15ポイント → 79% (H29年度)	土砂災害対策の推進(③,④) 土砂災害特別警戒区域の指定箇所数 [累計] 86カ所 (H26年度) → 3,623カ所 → 3,709カ所 (H29年度)	骨格幹線道路ネットワークの形成(⑤) 骨格幹線道路ネットワークの整備率 22% (H26年度) → 21ポイント → 43% (H29年度)
アセットマネジメントの推進(⑤) 都市計画道路の整備率(計画延長に対する完成延長の割合) 48.6% (H24年度) → 3.5ポイント → 52.1% (H29年度)	アセットマネジメントの推進(⑤) 奈良県橋梁長寿命化修繕計画(橋長15m以上)に基づく橋梁補修・耐震補強の実施率 64% (H24年度) → 34ポイント → 98% (H29年度)	アセットマネジメントの推進(⑤) 完了宣言箇所の供用箇所数 [累計] 25カ所 (H27年度) → 15カ所 → 40カ所 (H29年度)

数値で表せない成果

土砂災害特別警戒区域の調査結果を踏まえて、先行的保全施設としての対策が必要かの調査を順次実施しました。(④)

平成30年3月に、県南部地域の安全・安心を支える国道168号辻堂バイパス(延長4.1km)が全線開通しました。(⑤)

「奈良市附近」駅位置の早期確定及び三重・奈良・大阪ルートの早期実現に向け、国への要望活動等の実施に加え、新たな取組として、平成29年9月に三重・奈良・大阪リニア中央新幹線建設促進決起大会を開催しました。(再掲)(⑥)

4. 平成31年度に向けた課題の明確化

＜政策目標達成に向けた主な進捗状況＞
完了宣言箇所(供用予定年度を公表している箇所)について、重点的に整備し、平成28年度に6カ所、平成29年度に国道168号辻堂バイパス等7カ所を供用し、15カ所中13カ所を供用しました。

＜戦略目標達成に向けた主な進捗状況＞
平成28年度までに30カ所、平成29年度に王寺誇線橋北交差点で右折レーンの延伸等15カ所の渋滞対策を実施し、累計で45カ所の渋滞対策を実施しました。

＜奈良県の持っている強み＞
1 歴史文化遺産や自然環境に恵まれている
2 リニア中央新幹線について、平成23年5月に全国新幹線鉄道整備法に基づき決定された整備計画において、主要な経過地として「奈良市附近」と定められている

＜奈良県の抱えている弱み＞
3 高度成長期に整備された社会資本の老朽化
4 中山間地域では、崩壊等で道路が通行止めになると迂回路も少なく、集落が孤立化する懸念
5 県管理道路の道路整備率は約40%で全国平均約61%と比べて大幅な遅れ
6 県管理道路の歩道整備率は約26%で全国平均約42%と比べて大幅な遅れ
7 通勤時における自家用車利用率は、約43%と高い
8 バリアフリー基本構想の策定が全国と比べ遅れている
9 大和平野では市街地の増加やため池の減少等により、保水力が低下

＜奈良県への追い風＞
a 県民は、地震、台風、火災等の災害に強いまちづくりの推進を行政に期待
b 国による平城宮跡歴史公園の整備
c 政府による国土強靱化の推進
d 政府において、財政投融资の活用・工夫により、リニア中央新幹線の全線開業を最大8年間前倒しすることが決定された
e 自転車利用者からは、「案内誘導の拡充」等を求める意見が多い
f 京奈和自動車道大和北道路及び国道168号新天辻工区の平成30年度新規事業化が決定した
g 全国的な通学路等の安全対策実施の動き

＜奈良県への向かい風＞
h 紀伊半島大水害により、社会資本に甚大な被害
i 紀伊半島大水害では、大規模な土砂災害が発生
j 近年、1時間降水量50mm以上の局地的豪雨の発生割合が増加
k 高まりつつある南海トラフ巨大地震等の巨大災害の発生
l 奈良公園の利活用之际、多くの規制が存在

＜強みで追い風を活かす課題＞
[重要課題]リニア中央新幹線の整備促進(2,d)
[重要課題]奈良の魅力を一層高める交通環境の充実(1,g)
[重要課題]平城宮跡歴史公園の整備推進(1,b)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞
[重要課題]活力の基盤となる道路の整備推進(5,6,e,f)
[重要課題]社会資本のアセットマネジメントの推進(3,a,c)
[重要課題]通学路の危険箇所における安全対策の推進(7,g)
・誰もが安心して暮らせるモビリティの確保(6,8,e,g)
・効率的な下水道運営の推進(3,c)

＜強みで向かい風を克服する課題＞
[重要課題]奈良公園基本戦略に基づく施策の推進(1,l)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞
[重要課題]紀伊半島アンカールート等の災害に強い道路整備の推進(4,5,h,i,j,k)
[重要課題]大和川総合治水対策の推進(貯める対策)(9,j)
・浸水常襲地域における減災対策の推進(9,j)
[重要課題]先行的保全施設への土砂災害対策の推進(4,i)
・大規模土砂災害の監視・警戒・避難のシステムづくり(4,h,i,j)

5. 平成28年度の評価を踏まえ、平成30年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
大和川総合治水対策の推進(貯める対策)(戦略3)	総合治水対策をより一層推進していくため、平成30年4月に「大和川流域における総合治水の推進に関する条例」を施行しました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
リニア中央新幹線の整備促進(戦略1,3)	・「奈良市附近」の駅位置及び三重・奈良・大阪ルートの早期確定を、引き続き国、JR東海に対し強く要望します。 ・整備促進を図るため、地元自治体に協力を求められる事項やその受入体制について検討します。
奈良の魅力を一層高める交通環境の充実(戦略1)	(仮称)登大路バスターミナルの整備を推進するとともに、公共交通機関の利用促進や、「ぐるっとバス」の活用によるマイカーの流入抑制対策、奈良公園周辺の通過交通削減対策等を実施します。
平城宮跡歴史公園の整備推進(戦略1)	朱雀大路東側地区の整備について、検討委員会を立ち上げ、歴史体験学習館の機能等について各方面の専門家の意見を伺い、計画を立案し、早期完成に向けて整備推進します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
活力の基盤となる道路の整備推進(戦略1,2,3)	今後5か年の道路の方向性を示す奈良県道路整備基本計画(H26年7月策定)に基づき、京奈和自動車道等の骨格幹線道路ネットワークの形成と併せ、目的志向の道路整備を推進します。
社会資本のアセットマネジメントの推進(戦略2)	・橋梁、トンネル等の道路施設、河川管理施設、下水道施設、都市公園施設等の計画的・効率的な維持管理・更新、耐震化を推進します。 ・社会資本の維持管理におけるボランティア活動等、県民との協働を推進します。
通学路の危険箇所における安全対策の推進(戦略2)	道路管理者、市町村教育委員会、警察による合同点検で確認された危険箇所について、安全対策を推進します。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
奈良公園基本戦略に基づく施策の推進(戦略1)	吉城園周辺地区や高畑町裁判所跡地の保存管理・活用等の整備のほか、奈良公園の魅力を活かした誘客イベントの企画・実施等の施策を推進します。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
紀伊半島アンカールート等の災害に強い道路整備の推進(戦略1,2,3)	南海トラフ巨大地震等への備えとして、災害時に緊急輸送道路として役割を果たす紀伊半島アンカールート等の整備を推進します。
大和川総合治水対策の推進(貯める対策)(戦略3)	・圏域別治水対策協議会や大和川流域総合治水対策協議会を開催し、流域対策の具体的検討を進めます。 ・国・市町村と連携し、大和川流域整備計画を見直します。
先行的保全施設への土砂災害対策の推進(戦略3)	代替性のない避難所、24時間入居者のいる災害時要援護者関連施設について、土砂災害から保全する対策を重点的に実施します。

